【解答解説】2017 久留米大医・推薦入試

【解答】

1

1	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
	a	c	d	b	c	a
2	d	f	h			

2

(1) f b d e a c

(2) c a e f d b

(3) a f c e b d

(4) d a f c e b

3

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
a	c	d	b	c

4

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
b	d	c	b	d

5

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
b	c	d	c	d
(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
c	c	a	b	a

6

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
c	b	c	c	b

【解説】

1

1.

(1) confirm は他動詞のため，直後に with をおけない。直前に因果 V の result in がある。S である Cross-cultural understanding（異文化理解）が原因となり，起こる結果が people being able to (　1　) ~ にあたるため，当然「様々な文化の人や状況と関わりあう」ことが考えられるため, interact with が適切。

(2) (b)は一旦無視。To have this knowledge means that people become (　　) ~の構造から. To have this knowledge = people become (　) ~と分かる。本文では cross-cultural knowledge を肯定的に捉えていルため，マイナス情報の(a)や(d)は不可。be acquainted with（～に精通している）にすれば，意味も合致する。

(3) (a)(b)は一旦無視。直後 into から, integrate A into B（A を統一して B にする）の受動態 A is integrated into B の構造に気付き, (d)決定。第 2 パラグラフ最終文の

(4) (　　) and attitude の and 並列を利用。attitude と同等に並列できる選択肢を検索。「行動[振る舞い]と態度」と考え, (b)決定。

(5) (1)と同様因果を利用。gaining knowledge and awareness of a culture という原因が them becoming (　　) in that culture という結果になる。そう考えると, (c)しかない。なお，空所(2)の箇所と内容が一致しているため, (2)を利用しても OK。

(6) 一旦(c)を無視。異文化理解を話題にしており，空所前後で「2 つ目の文化はやがては 1 つ目の文化と（　　）」という内容を考えると, blends（混ざり合う・融合する）しかないだろう。なお，　空所(3)と述べらている内容が類似しているため, (3)付近を根拠にするのもありだろう。さらに空所(2)直後も大ヒント。intermingle（混ざる）。

2.

(a) challenges（難題，課題）に対応するのが第 1 パラグラフ 1 文目の difficult。同じ文に most people もある。3 文目には after people stay in another country とあるため, relocate to a new country と言えなくもない。relocate は「移転・転居する」を表すため, 3 文目の stay in another country for some time と合致するかが微妙なところ。一度保留にしておこう。

(b) 第 2 パラグラフ 2 文目より，異文化理解=他者理解。重要度は変わらない。

(c) 第 2 パラグラフ最終 2 文より, seldom blend easily が誤り。なお，この選択肢の blend を空所(a)の答えのヒントにしてもよい。

(d) three step に対応したものとして，第 1 パラグラフ最終文の three following features に着目する。program を「行程」と解釈すれば正解と言える。この 3 つの特徴(features)は第 2→3→4 パラグラフで順を追って詳述されていることからも

「行程」と言えそうだ。きわめつけは，第 3 パラグラフ 2 文目の this stage や最終パラグラフ 2 文目の the steps。これで確定できる。

(e) 第 2 パラグラフ最終 2 文や第 5 パラグラフ 2 文目より almost impossible が誤り。なお assimilate into を空所(3)の答えの根拠の 1 つにしてもよい。

(f) Learning as much as possible about a new culture は第 3 パラグラフの 2 つ目のステップである「cross-cultural awareness」に関するものだと考えられる。第 3 パラグラフ全体から (f)の内容は正しいと判断できる。

(g) なし。

(h) 第 3 パラグラフより正解。

2

解説省略

3

(1) 「いつ駅に行く準備ができると思う？」に対する質問に対する答えとしては(a)「もう 10 分ください」が妥当。(b)(d)は then の指示内容がなし。(c)は質問の答えになっていない。

(2) 「コンピューターが今朝壊れた！」に対する答えとしては(c)「マジ？どうしてそうなったの？」が妥当。

(3) 与えられた英文は「久しぶり」を表す定番表現。(d)「本当にその通り」しか自然なものがない。

(4)「来週テストが 3 連続であるんだ」に対する答えとして(b)「本当に運悪いね」が妥当。

(5)「今晩の夕食特定の場所って頭に浮かんでる？」に対する答えとしては(c)「本当に魚が食べたいんです」が妥当。魚が食べられるお店に行きたいことを表しているため，質問の答えになっている。

4

(1) for → to

・seem は「～にとって」を to 人で表す。基礎知識のため間違えたくない。

(2) acquaintance → acquaintances

・one of ＋複数名詞

(3) which → where

・which 直後は不完全だが，完全のため（さらに先行詞が house），where。

(4) reasonable → reasonably

・直後に動詞 price の過去分詞形。形容詞には名詞以外を修飾できない。

(5) is fitted → fits

・A fit B（A はサイズが B に合う）。fit の O が foot にあたるため，受動態は不可。

5

出題の意図

(1) 前置詞の識別と文脈

直後に「曜日」のため, at や in は消える。forward（前方へ）と for（～へ向かって）は意味合いが重複するため, 誤りだろうと判断する。文脈的に,「〆切が月曜から前方向へ運ばれた → 〆切が月曜から前倒しされた」と判断。
なお, bring ~ forward (from A to B)
= (A から B へ)～を繰り上げる, 前倒しにする

(2) 語彙と and 並列

等価・等質の and 直後の内容から chronic に決定。
なお, (a)は無視して OK（英検 1 級レベル）

~~curdle = 凝固する~~　accurate = 正確な
chronic = 慢性的な　obese = 肥満の

(3) 語彙

survive = 自 生き残る 他 ～から生き延びる
suspend = ①～を停止する ②～をつるす
supply = ～を供給する
sustain = ～を維持する

(4) 語彙 と more A than B

more A than B（B より A）で B に hard facts（確固たる事実）とあるため, A はその逆の内容になるはず。

realize = 現実主義　tolerance = 寛容さ
speculation = 推測　influence = 影響

(5) 品詞

旧傾向（品詞から決めさせる）。助動詞 can 直後の空所なので, 動詞原形が必要。

anticipatorily = 副 予想して　anticipatory = 形 予想しての
anticipation = 名 予想　anticipate = 動 ～を予想する

(6) 品詞と語彙

旧傾向（品詞から決めさせる）。a ~ (　) of の形から，空所には名詞が入る。opposition（反対）か opponent（反対者）のどちらかだが, Mr. Brown was ~だから, opponent にする。be 動詞はイコール V。

oppose = 他 ～に反対する　opposition = 反対　opponent = 反対者

(7) 語彙

「売上減少を避けたいのであれば（　）な策を講じなければならない」という内容から, (b)(d)はないだろう。また, topic は「話題」のため, topical は「時事的な」くらいは予想したい。こちらも文脈から消す。

take extreme measures = 極端な対策を講じる，強硬[過激な]手段をとる

topical = 時事的な　wrong = 間違った　extreme = 極端な　distant = 遠くの

(8) 品詞

The (　) results【the (　)名詞】の(　)には形容詞が入る。guarantee は名詞か他動詞のため, (b)(c)はなし。分詞にした(a)受動 か (d)能動 のどちらか。results と guarantee の関係は受動のため, (a)。

guaranteed = 保証された　guarantee = 名 保証 他～を保証する

(9) 品詞と語彙

本番では捨て問となる。a ~ (　)なので空所には名詞。(d)は確実に消せる。(a)は U。(b)は C。polluter は公害の原因を作る企業/人の意味が中心。Cleaning detergent（洗剤）is a ~ から C の(b)を選ぶ。

pollution = U ①汚染 ②汚染物質　pollutant = C 汚染物質，汚染源

polluter = 公害の原因を作る企業/人/物

(10)語彙

「(　) で十分（will do）なら, 1 文に長い語は使わない」という文脈から空所には long の反対語「短い」が入ると判断。diminutive のパーツに着目。dimin は基本語の diminish（減少する）とスペリングが類似。また, mini（ミニ）は「小さい」。短い語を小さい語と捉えると答えになりそうだ。

diminutive = 小さい　colossal = 巨大な

hazy = かすんだ　radiant = 放射の

日本語訳

(1) 宿題の提出期限は 4 月 25 日の月曜から前倒しにされてしまった。

(2) この病気の症状は慢性的で 3 年以上つづくこともある。

(3) 生命を維持できる惑星は見つけられないと思う。

(4) 人気のある新聞[雑誌，報道]は確固たる事実よりはるか推測の方が多い。

(5) 業界の流行をより予想できるように，その企業は顧客に調査に参加するよう促した。

(6) Brown さんはネットワークの構成要素を含めることによりその製品を多様化するプランに熱烈に反対している人だ。

(7) 新しい CEO は自社の売上減少を避けたいのであれば，強硬な措置を講じる必要があると主張した。

(8) 企業の宣伝で触れられている保証された結果はかなり印象的だ。

(9) 洗剤は排水溝で見つけられるよくある家庭から出る汚染源[汚染物質]だ。

(10) 英語で書かれたほとんどの本には短い語で間に合うのであれば 1 文の中で長い語を使うべきではないと書かれてある。

6 【アクセント】

(1)(2) -ic / -ics /-ical は 1 つ前の母音にアクセント。

(3) -ity/-ety は 1 つ前の母音にアクセント

(4) -ate/-ator は 2 つ前の母音にアクセント